# 第11章　その他の取引②

## 11－1　租税公課

**【重要性：A】**

**ＰＯＩＮＴ！**

**①　「租税公課」勘定で処理する税金を覚えよう！**

**②　仕訳をマスターしよう！**

**主な勘定科目**

**「租税公課」勘定（費用）**

**租税公課**（そぜいこうか）とは、税金のうち費用の性格を有するものであり、具体的には、印紙税（いんしぜい）、店舗の固定資産税（こていしさんぜい）、事業税（じぎょうぜい）などがあります。これらは「**租税公課**」勘定（**費用**）で処理します。なお、具体的な内容を示すために、「印紙税」勘定、「固定資産税」勘定、「事業税」勘定を用いる場合もあります。

なお、租税公課として費用計上できるのは、事業にかかる分だけです。同じ税金でも個人商店の店主個人の所得税（しょとくぜい）や住民税（じゅうみんぜい）などは事業に関連しない個人の支払なので、租税公課として処理しませんので注意して下さい。商店のお金を店主個人のために使った場合の会計処理は［14－２］で説明します。

**例題11－１　店舗の固定資産税200円を現金で支払った。**

| 借方科目 | 金額 | 貸方科目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| **租税公課** | **200** | **現金** | **200** |

# 11－2　消費税

**【重要性：A】**

**【税込方式の重要性：C】**

**ＰＯＩＮＴ！**

**①　消費税の仕組みを理解しよう！**

**②　税抜方式の仕訳をマスターしよう！**

**主な勘定科目（税抜方式）**

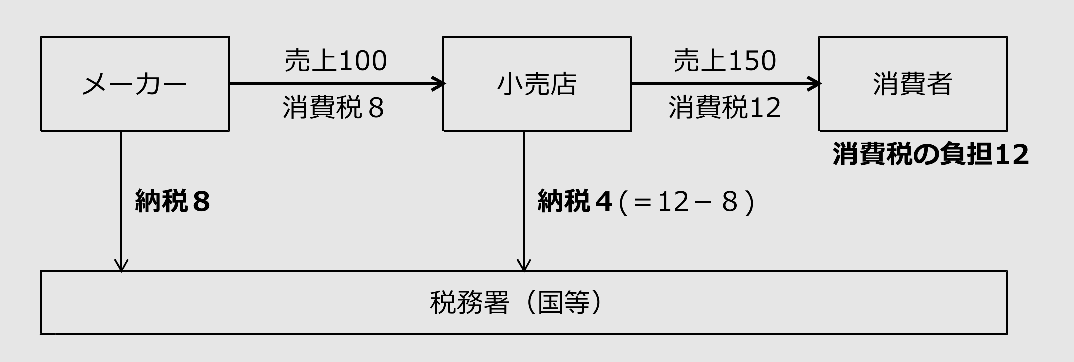
**「仮払消費税」勘定（資産）**

**「仮受消費税」勘定（負債）**

**「未払消費税」勘定（負債）**

### （１）消費税とは？

消費税とは、事業者が国内で行った資産の譲渡やサービスの提供等に課せられる税金です。消費税は、製造、流通等の過程で課税されますが、最終的には消費者が税を負担します。したがって、消費税は消費者でない事業主の損益には影響を与えません。




消費税の会計処理には、**税抜方式**(ぜいぬきほうしき)と**税込方式**(ぜいこみほうしき)があります。全商簿記では主に税抜方式が出題されていますので、税込方式は参考として下さい。

**（2）税抜方式**

① 仕入時

商品を仕入れた場合等、消費税を支払ったときには「**仮払消費税**」勘定（**資産**）で処理します。

**例題11－2**　**商品10,000円を仕入れ、代金は掛けとした。なお、消費税率は８％である。なお、消費税の処理として税抜方式を採用している。**

| 借方科目 | 金額 | 貸方科目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| **仕入** | **10,000** | **買掛金** | **10,800** |
| **仮払消費税** | **800** | | |

仮払消費税：10,000×８％＝800

買掛金：10,000＋消費税800＝10,800

② 売上時

商品を売り上げた場合等、消費税を受け取ったときには「**仮受消費税**」勘定（**負債**）で処理します。

**例題11－3**　**商品10,000円を15,000円で販売し、代金は掛けとした。なお、消費税率は８％である。なお、消費税の処理として税抜方式を採用している。**

| 借方科目 | 金額 | 貸方科目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| **売掛金** | **16,200** | **売上** | **15,000** |
| | | **仮受消費税** | **1,200** |

仮受消費税：15,000×８％＝1,200

売掛金：15,000＋消費税1,200＝16,200

③ 決算時

受け取った消費税と支払った消費税を相殺した差額を納付しますので、「**未払消費税**」勘定（**負債**）で処理します。

**例題11－4**　**決算において、受け取った消費税1,200円と支払った消費税800円を相殺し、納付額を決定する。なお、消費税の処理として税抜方式を採用している。**

| 借方科目 | 金額 | 貸方科目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| **仮受消費税** | **1,200** | **仮払消費税** | **800** |
| | | **未払消費税** | **400** |

④　納付時

納付額の支払時に「**未払消費税**」勘定（**負債**）を減少させます。

**例題11－5**　**消費税の納付額400円を当座預金から支払った。なお、消費税の処理として税抜方式を採用している。**

| 借 方 科 目 | 金　　額 | 貸 方 科 目 | 金　　額 |
|---|---|---|---|
| **未払消費税** | **400** | **当座預金** | **400** |

**（３）税込方式（参考）**

①　仕入時

商品を仕入れた場合等、消費税を支払ったときには消費税を「仕入」勘定等の費用に含めて処理します。

**例題11－6**　**商品10,000円を仕入れ、代金は掛けとした。なお、消費税率は８％である。なお、消費税の処理として税込方式を採用している。**

| 借 方 科 目 | 金　　額 | 貸 方 科 目 | 金　　額 |
|---|---|---|---|
| **仕入** | **10,800** | **買掛金** | **10,800** |

消費税：10,000×８％＝800

仕入：10,000＋消費税800＝10,800

②　売上時

商品を売り上げた場合等、消費税を受け取ったときには消費税を「売上」勘定等（収益）で処理します。

**例題11－7**　**商品10,000円を15,000円で販売し、代金は掛けとした。なお、消費税率は８％である。なお、消費税の処理として税込方式を採用している。**

| 借 方 科 目 | 金　　額 | 貸 方 科 目 | 金　　額 |
|---|---|---|---|
| **売掛金** | **16,200** | **売上** | **16,200** |

消費税：15,000×８％＝1,200

売上：15,000＋消費税1,200＝16,200

③　決算時

受け取った消費税と支払った消費税を相殺した差額を納付しますので、「租税公課」勘定（費用）と「未払消費税」勘定（負債）で処理します。

**例題11－8**　**決算において、受け取った消費税1,200円と支払った消費税800円を相殺し、納付額を決定する。なお、消費税の処理として税込方式を採用している。**

| 借方科目 | 金　額 | 貸方科目 | 金　額 |
|---|---|---|---|
| **租　税　公　課** | **400** | **未　払　消　費　税** | **400** |

④　納付時

納付額の支払時に「**未払消費税**」勘定（**負債**）を減少させます。

**例題11－9**　**消費税の納付額400円を当座預金から支払った。なお、消費税の処理として税込方式を採用している。**

| 借方科目 | 金　額 | 貸方科目 | 金　額 |
|---|---|---|---|
| **未　払　消　費　税** | **400** | **当　座　預　金** | **400** |

# 11－3　貸付金・借入金

**【重要性：A】**

**ＰＯＩＮＴ！**

**①　貸付金と借入金を理解しよう！**

**②　仕訳をマスターしよう！**

**主な勘定科目**

**「貸付金」勘定（資産）**

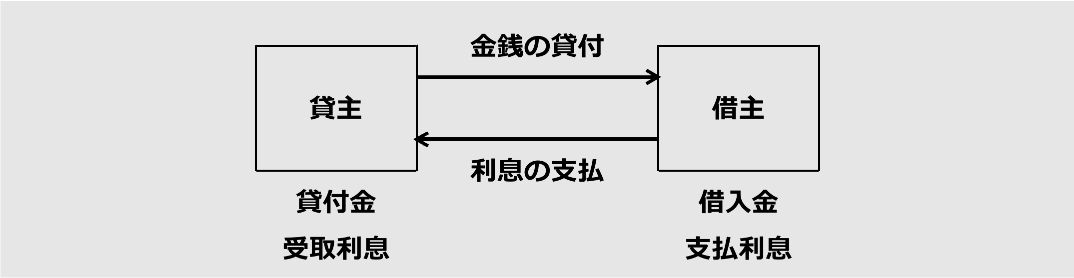
**「受取利息」勘定（収益）**

**「借入金」勘定（負債）**

**「支払利息」勘定（費用）**

取引先や従業員にお金を貸し付けることがあります。その場合、将来、貸し付けた金銭を返してもらう権利が生じますので「**貸付金**」勘定（**資産**）で処理します。また、銀行からお金を借り入れた場合、将来、借り入れた金銭を返済する義務が生じますので「**借入金**」勘定（**負債**）で処理します。

金銭の貸借に伴って、通常、利息が生じます。金銭を貸し付けることによって受け取る利息は「**受取利息**」勘定（**収益**）で処理します。また、金銭を借り入れることによって支払う利息は「**支払利息**」勘定（**費用**）で処理します。




**（１）貸付金**

① 貸付時

**例題11－10**　**取引先に1,000円を現金で貸し付けた。**

| 借方科目 | 金額 | 貸方科目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| **貸付金** | **1,000** | **現金** | **1,000** |

② 利息の受取時

**例題11－11**　**貸付金の利息20円を現金で受け取った。**

| 借方科目 | 金額 | 貸方科目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| **現金** | **20** | **受取利息** | **20** |

③ 貸付金の回収時

**例題11－12**　**貸付金1,000円が返済され、当座に振り込まれた。**

| 借方科目 | 金額 | 貸方科目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| **当座預金** | **1,000** | **貸付金** | **1,000** |

## （2）借入金

①　借入時

**例題11－13**　**銀行から1,000円を借り入れ、当座に振り込まれた。**

| 借 方 科 目 | 金　　額 | 貸 方 科 目 | 金　　額 |
|---|---|---|---|
| **当　座　預　金** | **1,000** | **借　　入　　金** | **1,000** |

②　利息の支払時

**例題11－14**　**借入金の利息20円を当座により支払った。**

| 借 方 科 目 | 金　　額 | 貸 方 科 目 | 金　　額 |
|---|---|---|---|
| **支　払　利　息** | **20** | **当　座　預　金** | **20** |

③　借入金の返済時

**例題11－15**　**借入金1,000円を返済し、当座により支払った。**

| 借 方 科 目 | 金　　額 | 貸 方 科 目 | 金　　額 |
|---|---|---|---|
| **借　　入　　金** | **1,000** | **当　座　預　金** | **1,000** |

# 11－4　手形貸付金・手形借入金

【重要性：B】

**ＰＯＩＮＴ！**

①　手形貸付金と手形借入金を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

**主な勘定科目**

「手形貸付金」勘定（資産）

「手形借入金」勘定（負債）

金銭の貸借は通常、借用証書（しゃくようしょうしょ）を用いますが、借用証書の代わりに手形を用いる場合があります。手形を用いた貸付・借入は通常の貸付金・借入金と区別するために、「**手形貸付金**（てがたかしつけきん）」勘定（**資産**）、「**手形借入金**（てがたかりいれきん）」勘定（**負債**）を用いて処理します。

また、約束手形を振り出したり、受け取ったりしますが、「支払手形」勘定（負債）や「受取手形」勘定（資産）を用いないように注意して下さい。

### （1）手形貸付金

① 手形貸付時

**例題11－16　取引先に1,000円を現金で貸し付け、借用証書の代わりに約束手形を受け取った。**

| 借方科目 | 金額 | 貸方科目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| **手形貸付金** | **1,000** | **現金** | **1,000** |

② 手形貸付金の回収時

**例題11－17　手形貸付金1,000円が返済され、当座に振り込まれた。**

| 借方科目 | 金額 | 貸方科目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| **当座預金** | **1,000** | **手形貸付金** | **1,000** |

### （2）手形借入金

① 手形借入時

**例題11－18　取引先から現金1,000円を借り入れ、借用証書の代わりに約束手形を振り出した。**

| 借方科目 | 金額 | 貸方科目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| **現金** | **1,000** | **手形借入金** | **1,000** |

② 手形借入金の返済時

**例題11－19　手形借入金1,000円を返済し、当座により支払った。**

| 借方科目 | 金額 | 貸方科目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| **手形借入金** | **1,000** | **当座預金** | **1,000** |

# 第11章　その他の取引②　問題

**問題11-1**　以下の取引に関して、仕訳を行いなさい。

① 1月1日に銀行から100,000円を借り入れ、当座預金に預け入れた。
② 6月30日に借入金100,000円にかかる半年分の利息（年利率２%）を当座により支払った。
③ 12月31日に元本100,000円と半年分の利息（年利率２%）を当座により支払った。
④ 取引先へ50,000円を現金にて貸し付けた。
⑤ 取引先から貸付金の元本50,000円の返済と貸付期間1年分の利息（年利率1%）を現金にて受け取った。
⑥ 取引先から約束手形80,000円を受け取ったが、これは現金の貸し付けに関して受け取ったものであった。
⑦ 取引先から現金30,000円を借り入れ、借用証書の代わりに約束手形を振り出した。
⑧ 店舗の固定資産税44,000円を現金で支払った。
⑨ 当社は得意先に商品を420,000円で販売し、消費税33,600円とともに現金で受け取った。なお、消費税の会計処理として税抜方式を採用している。
⑩ 決算に際して、消費税の納付額を計算し、これを確定する。なお、当期の消費税仮払分は742,000円、消費税仮受分は990,000円であり、消費税の処理は税抜方式によっている。

# 第11章　その他の取引②　答案用紙

**問題11-1**

| | 借 方 科 目 | 金　　額 | 貸 方 科 目 | 金　　額 |
|---|---|---|---|---|
| ① | | | | |
| ② | | | | |
| ③ | | | | |
| ④ | | | | |
| ⑤ | | | | |
| ⑥ | | | | |
| ⑦ | | | | |
| ⑧ | | | | |
| ⑨ | | | | |
| ⑩ | | | | |

# 第11章　その他の取引②　解答解説

**問題11-1**　**解答**

| | 借方科目 | 金額 | 貸方科目 | 金額 |
|---|---|---|---|---|
| ① | 当座預金 | 100,000 | 借入金 | 100,000 |
| ② | 支払利息 | 1,000 | 当座預金 | 1,000 |
| ③ | 借入金 | 100,000 | 当座預金 | 101,000 |
| | 支払利息 | 1,000 | | |
| ④ | 貸付金 | 50,000 | 現金 | 50,000 |
| ⑤ | 現金 | 50,500 | 貸付金 | 50,000 |
| | | | 受取利息 | 500 |
| ⑥ | 手形貸付金 | 80,000 | 現金 | 80,000 |
| ⑦ | 現金 | 30,000 | 手形借入金 | 30,000 |
| ⑧ | 租税公課 | 44,000 | 現金 | 44,000 |
| ⑨ | 現金 | 453,600 | 売上 | 420,000 |
| | | | 仮受消費税 | 33,600 |
| ⑩ | 仮受消費税 | 990,000 | 仮払消費税 | 742,000 |
| | | | 未払消費税 | 248,000 |

**問題11-1** **解説**

① 銀行からお金を借り入れた場合、「借入金」勘定（負債）で処理します。

② 利息の支払いは「支払利息」勘定（費用）で処理します。

100,000×２%÷２＝1,000

③ 元本の返済は「借入金」勘定（負債）の減少として処理します。また、利息の支払いは「支払利息」勘定（費用）で処理します。

100,000×２%÷２＝1,000

④ 取引先への貸し付けは、「貸付金」勘定（資産）で処理します。

⑤ 貸付金の元本の返済は「貸付金」勘定（資産）の減少として処理します。また、利息の受け取りは「受取利息」勘定（収益）で処理します。

50,000×1%＝500

⑥ 手形による貸し付けは、「手形貸付金」勘定（資産）で処理します。

⑦ 手形による借入は、「手形借入金」勘定（負債）で処理します。

⑧ 固定資産税は、「租税公課」勘定（費用）で処理します。

⑨ 税抜方式では受け取った消費税を「仮受消費税」勘定（負債）で処理します。

⑩ 仮受消費税と仮払消費税の差額が未払の納付額であり、「未払消費税」勘定（負債）で処理します。